

2023 年度 伊賀市外国人住民アンケート調査報告書

■はじめに

2023 年 12 月末現在、伊賀市の人口は 85,954 人であるが、そのうち外国人住民は 5,970 人であり、総人口の 6.95%を占めている。

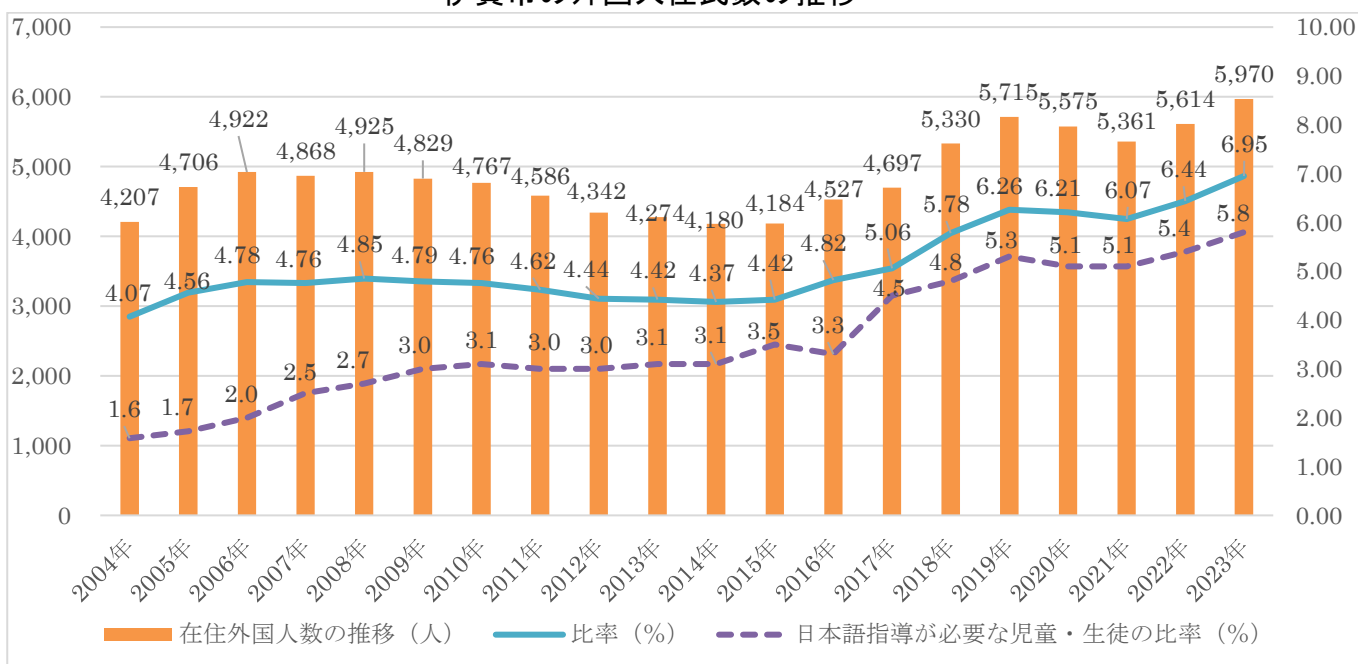
1990 年代から日系南米人労働者が多く来日し、外国人住民の永住化・定住化が進んだ。家族の呼び寄せや結婚等により2世代、3世代で居住している外国人世帯が増加し、市内の小中学校における日本語指導が必要な児童・生徒数の割合は 2023(令和5)年調査では、5.8%となっている。

2020 年の新型コロナウイルス感染症拡大により一時的に外国人住民数は減少したが、入国制限の解除により外国人住民数が急増し、人数、比率ともに過去最高となった。

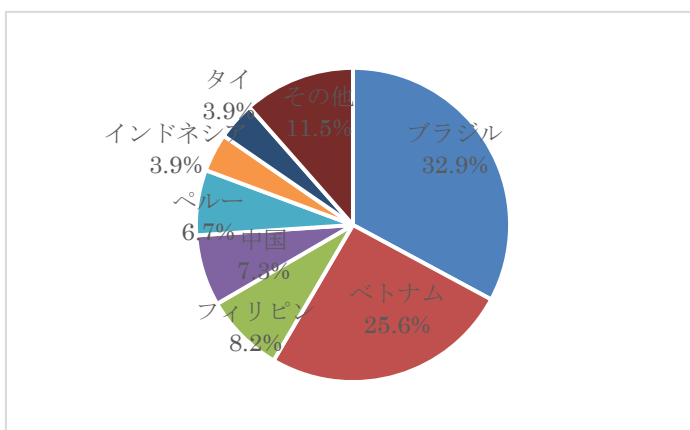
また、国籍別にみると、技能実習制度や一定の専門性・技能を有する外国人の新たな在留資格「特定技能」が創設され、ベトナム、フィリピンやインドネシア等のアジア圏出身の外国人住民が増加している。

出身国も 46 カ国と多様な文化をもつ外国人がいることから、ますます日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい、多文化共生のまちづくりを進めていくことが必要である。

伊賀市の外国人住民数の推移



	人数	割合
ブラジル	1,969	32.9%
ベトナム	1,531	25.6%
フィリピン	491	8.2%
中国	438	7.3%
ペルー	403	6.7%
インドネシア	236	3.9%
タイ	234	3.9%
その他	688	11.5%
合計	5,990	100%



【アンケート調査結果概要】

■調査期間 2023 年 10 月 1 日～10 月 31 日

■対 象 者 2023 年 10 月 1 日現在、伊賀市に在住する 18 歳以上の外国人住民

■調査方法 住民基本台帳より 1,000 人を無作為抽出し、アンケート協力依頼はがきを送付。

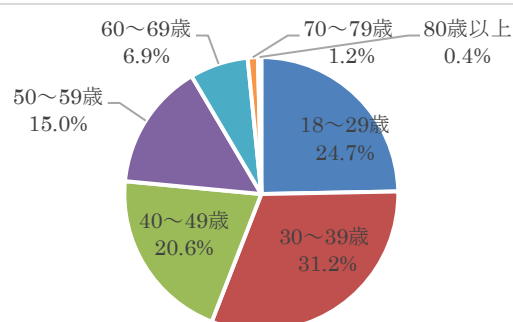
ホームページ、facebook、国際交流フェスタ、多文化共生課、団体への協力依頼等で実施。

■回 答 数 247 人

調査結果及び分析

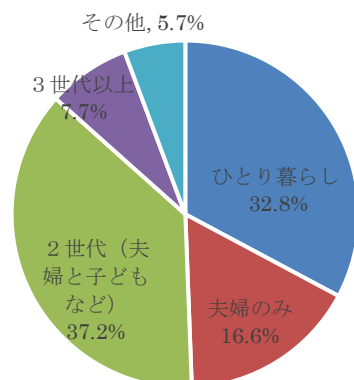
【あなた自身について】

問 1 (1) 年齢	回答数	割合
18～29 歳	61	24.7%
30～39 歳	77	31.2%
40～49 歳	51	20.6%
50～59 歳	37	15.0%
60～69 歳	17	6.9%
70～79 歳	3	1.2%
80 歳以上	1	0.4%
合計	247	100.0%



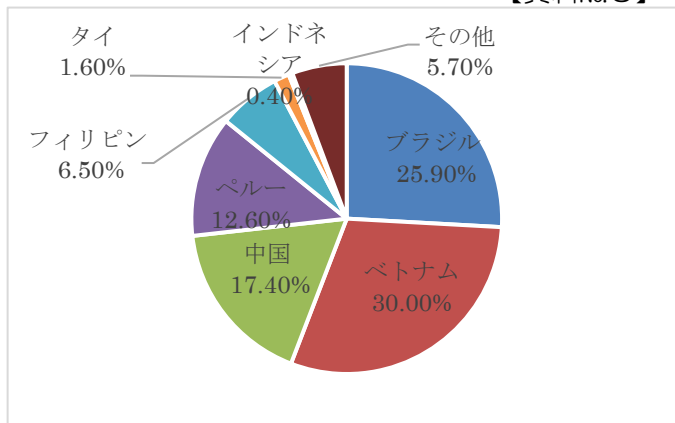
・「30～39 歳」が 31.2%と最も多く、次いで「18～29 歳」(24.7%)、「40～49 歳」と続く。回答者の 76.5%が 50 歳未満であった。

(2)世帯構成	回答数	割合
ひとり暮らし	81	32.8%
夫婦のみ	41	16.6%
2世代(夫婦と子どもなど)	92	37.2%
3世代以上	19	7.7%
その他	14	5.7%
合計	247	100.0%



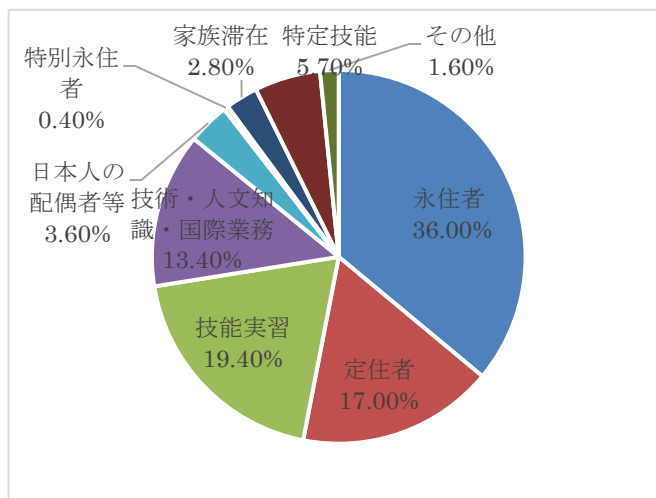
・「2世代」が最も多く、37.2%。「ひとり暮らし」が 32.8%であった。
「夫婦」のみ、「2世代」、「3世代」の合計は全体の 61.5%を占め家族で構成される世帯の回答者が多かった。

(3)国籍	回答数	割合
ブラジル	64	25.9%
ベトナム	74	30.0%
中国	43	17.4%
ペルー	31	12.6%
フィリピン	16	6.5%
タイ	4	1.6%
インドネシア	1	0.4%
その他	14	5.7%
合計	247	100%



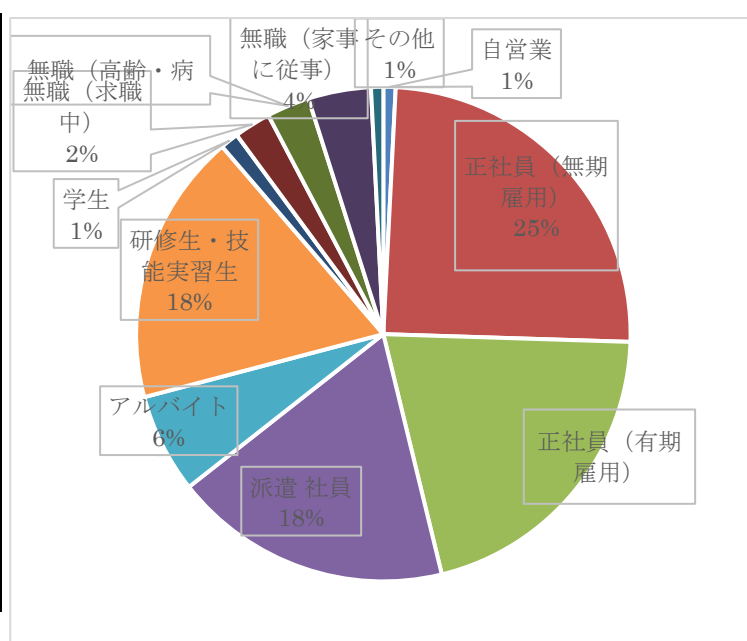
・回答者の国籍は、「ベトナム」が 30.0%と最も多く、次いで「ブラジル」(25.9%)、「中国」(17.4%)、「ペルー」(12.6%)であった。

(4)在留資格	回答数	割合
永住者	89	36.0%
定住者	42	17.0%
技能実習	48	19.4%
技術・人文知識・国際業務	33	13.4%
日本人の配偶者等	9	3.6%
特別永住者	1	0.4%
家族滞在	7	2.8%
特定技能	14	5.7%
その他	4	1.6%
合計	247	100.0%



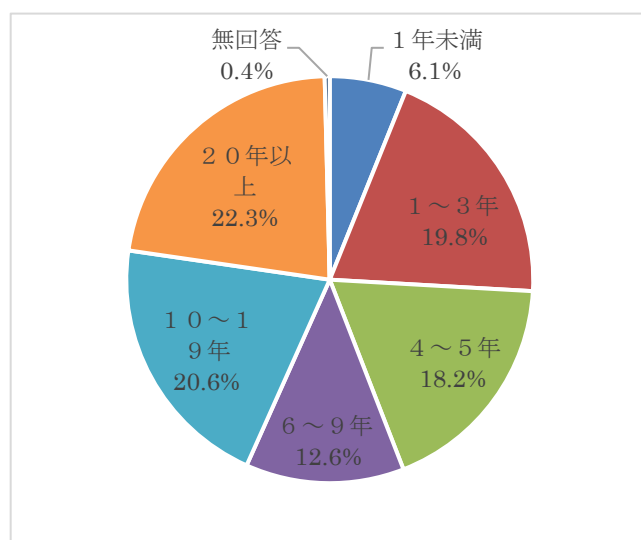
・永住者が最も多い。
 ・就労制限がない「永住者・定住者・日本人の配偶者等」の割合は、56.6%で「技能実習」は 19.4%、「特定技能」は 5.7%であった。当市の構成割合とほぼ同じ割合である。

(5)職業	回答数	割合
自営業	2	0.8%
正社員(無期 雇用)	61	24.7%
正社員(有期 雇用)	51	20.7%
派遣 社員	45	18.2%
アルバイト	16	6.5%
研修生・技能実習生	44	17.8%
学生	3	1.2%
無職(求職中)	6	2.4%
無職(高齢・病気で働くことができない)	7	2.8%
無職(家事に従事)	10	4.1%
その他	2	0.8%
合計	247	100.0%



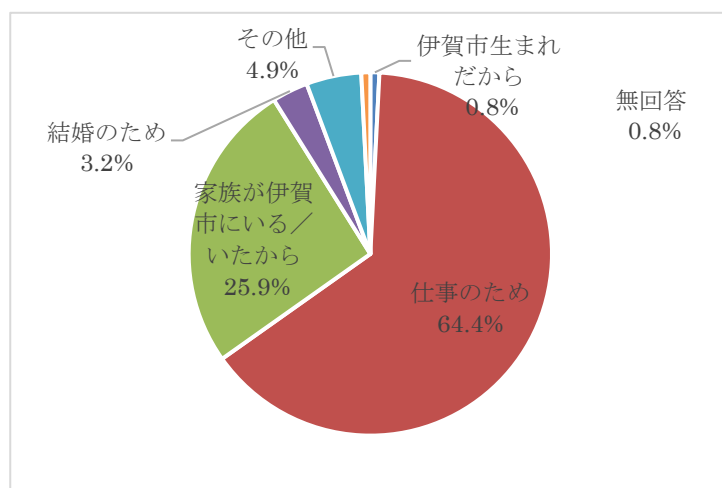
・「技能実習生」(17.8%)を除き、「派遣社員」(18.2%)、「正社員(無期雇用)」(24.7%)、「正社員(有期雇用)」(20.6%)が多くを占めている。有期雇用が多く不安定な雇用条件のもと働いていることがわかる。

(6)日本での滞在年数(通算)	回答数	割合
1年未満	15	6.1%
1～3年	49	19.8%
4～5年	45	18.2%
6～9年	31	12.6%
10～19年	51	20.6%
20年以上	55	22.3%
無回答	1	0.4%
合計	247	100.0%



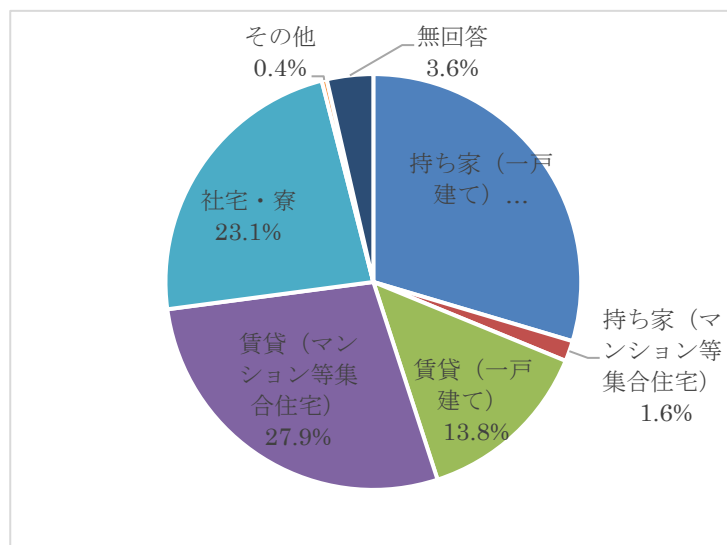
・10年以上日本に住んでいる割合が、42.9%で約半数を占めている。

(7)伊賀市に住んだ理由	回答数	割合
伊賀市生まれだから	2	0.8%
仕事のため	159	64.4%
家族が伊賀市にいる／いたから	64	25.9%
結婚のため	8	3.2%
その他	12	4.9%
無回答	2	0.8%
合計	247	100.0%



・「仕事のため」(64.4%)が最も多く、次いで「家族がいる／いたから」(25.9%)となっている。

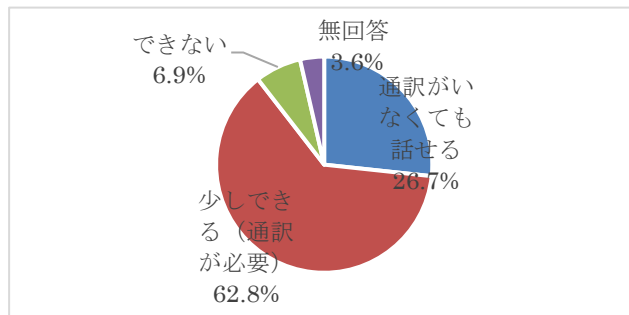
(8)住居形態	回答数	割合
持ち家(一戸建て)	73	29.6%
持ち家(マンション等集合住宅)	4	1.6%
賃貸(一戸建て)	34	13.8%
賃貸(マンション等集合住宅)	69	27.9%
社宅・寮	57	23.1%
その他	1	0.4%
無回答	9	3.6%
合計	247	100.0%



・賃貸の住宅に住む割合が高いが、「持ち家」と答えた割合 29.6%おり、「賃貸(一戸建て)」(13.8%)と合わせると、43.4%となっている。一戸建てに住む外国人も増えていることがわかる。

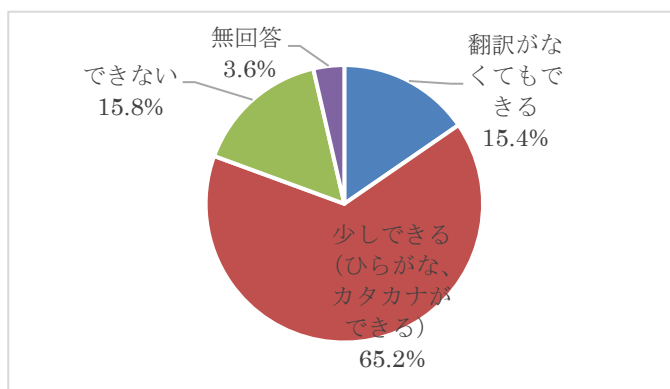
【日本語について】

問2 日本語を話せますか。	回答数	割合
通訳がいなくても話せる	66	26.7%
少しできる(通訳が必要)	155	62.8%
できない	17	6.9%
無回答	9	3.6%
合計	247	100.0%



・「通訳がいなくても話せる」(26.7%)と「少しできる」(62.8%)を合わせると約90%となっている。

問3 日本語を 読んだり 書いたり できますか。	回答数	割合
翻訳がなくてもできる	38	15.4%
少しできる(ひらがな、カタカナが できる)	161	65.2%
できない	39	15.8%
無回答	9	3.6%
合計	247	100.0%

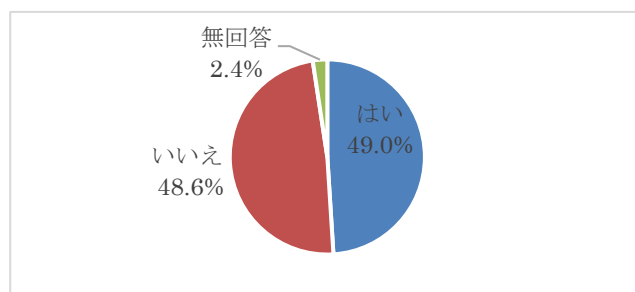


・「翻訳がなくてもできる」が 15.4%いる。

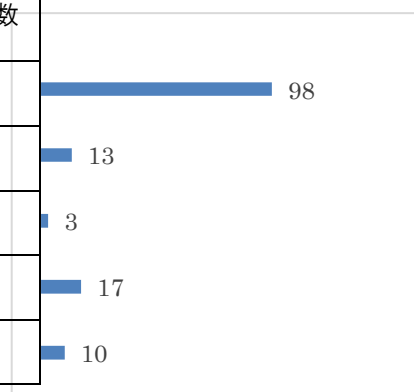
・「少しできる」(65.2%)と「できない」(15.8%)を合わせると約 80%となっている。

・日本語が話せない人の割合(6.9%)より「読んだり書いたり出来ない」割合(15.8%)の方が高く、文字習得が難しいことがわかる。

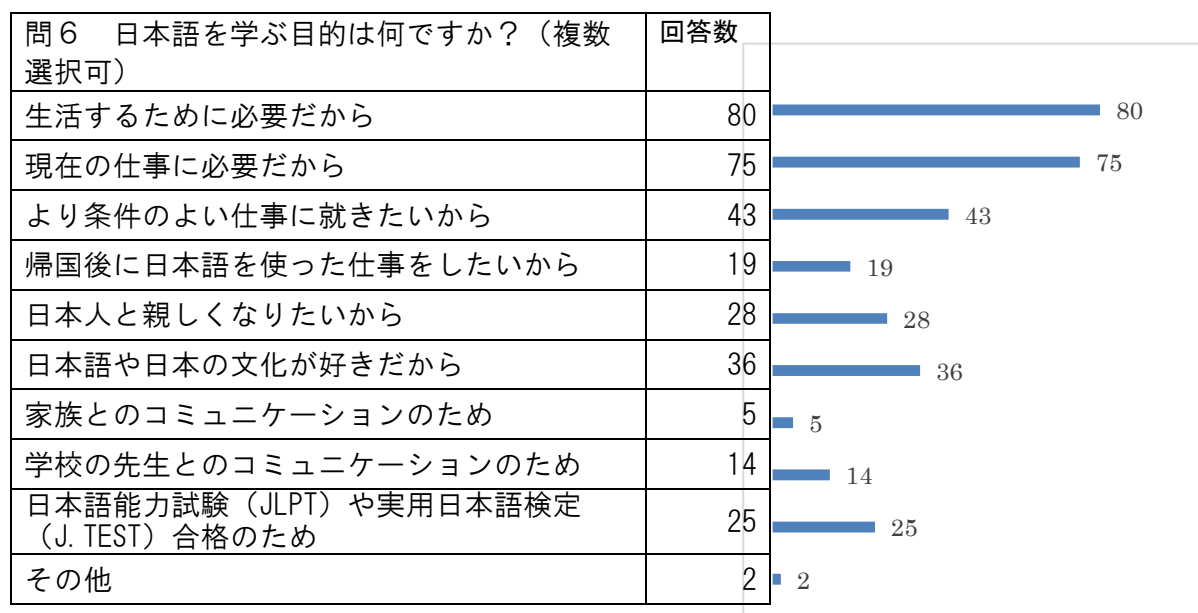
問4 あなたは今、日本語を学んでいますか。	回答数	割合
はい	121	49.0%
いいえ	120	48.6%
無回答	6	2.4%
合計	247	100.0%



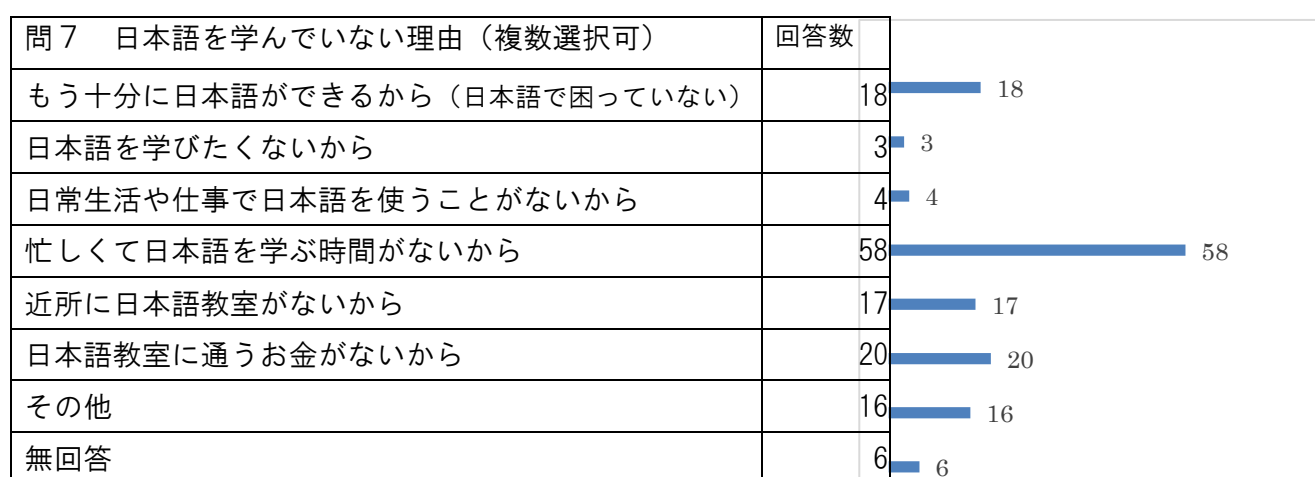
問5 どうやって日本語を学習していますか？(複数選択可)	回答数
家で、自分で学習している	98
会社で日本人従業員に教えてもらっている	13
会社で日本語の先生に教えてもらっている	3
ボランティア教室で勉強している	17
その他	10



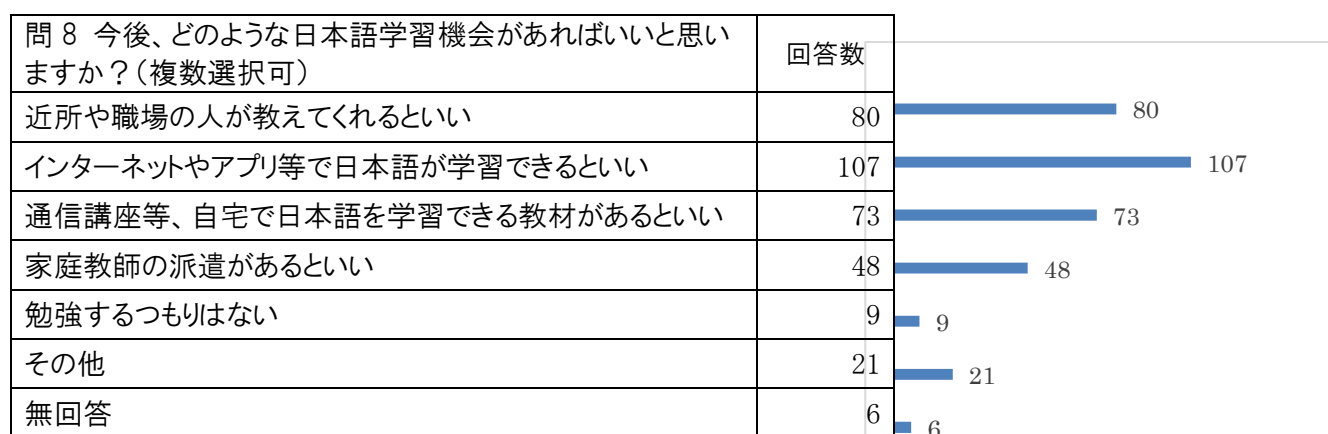
・「日本語を学んでいる」(49.0%)と回答した人の学習方法については、「家で、自分で学習している」が最も多く、会社やボランティア教室などで勉強している人などがある。



・日本語を学ぶ目的は、「生活するために必要だから」が最も多く、「現在の仕事に必要だから」、「より条件のよい仕事に就きたいから」と続く。仕事以外にも日本人とのコミュニケーションを図るために必要と感じている回答もみられた。

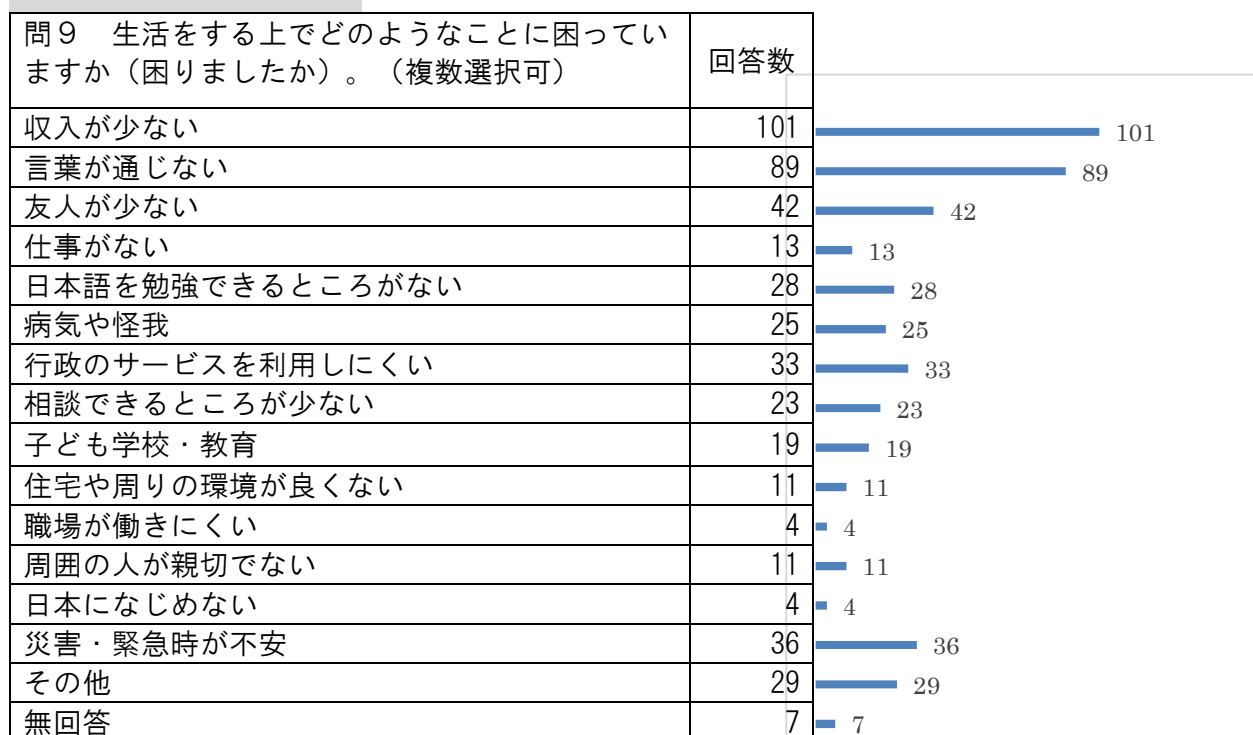


・日本語を学んでいない理由としては、「忙しくて日本語を学ぶ時間がないから」が最も多く、「日本語教室に通うお金がないから」「近所に日本語教室がないから」など生活スタイルや日本語教室に通える環境にないと考えている回答が多かった。

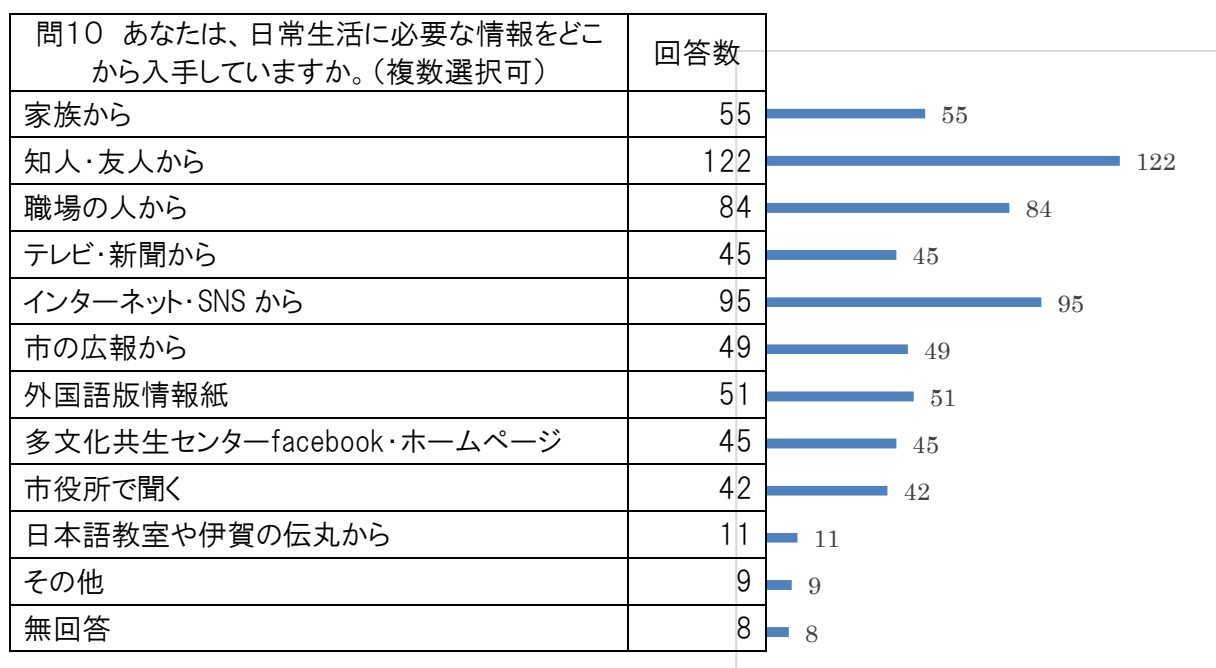


・日本語の学習機会については、インターネットやアプリの活用、通信講座など自宅で学習できるスタイルを希望していることがわかる。また、近所の人や家庭教師など自分のニーズにあった人と学習したいという希望があることもわかる。

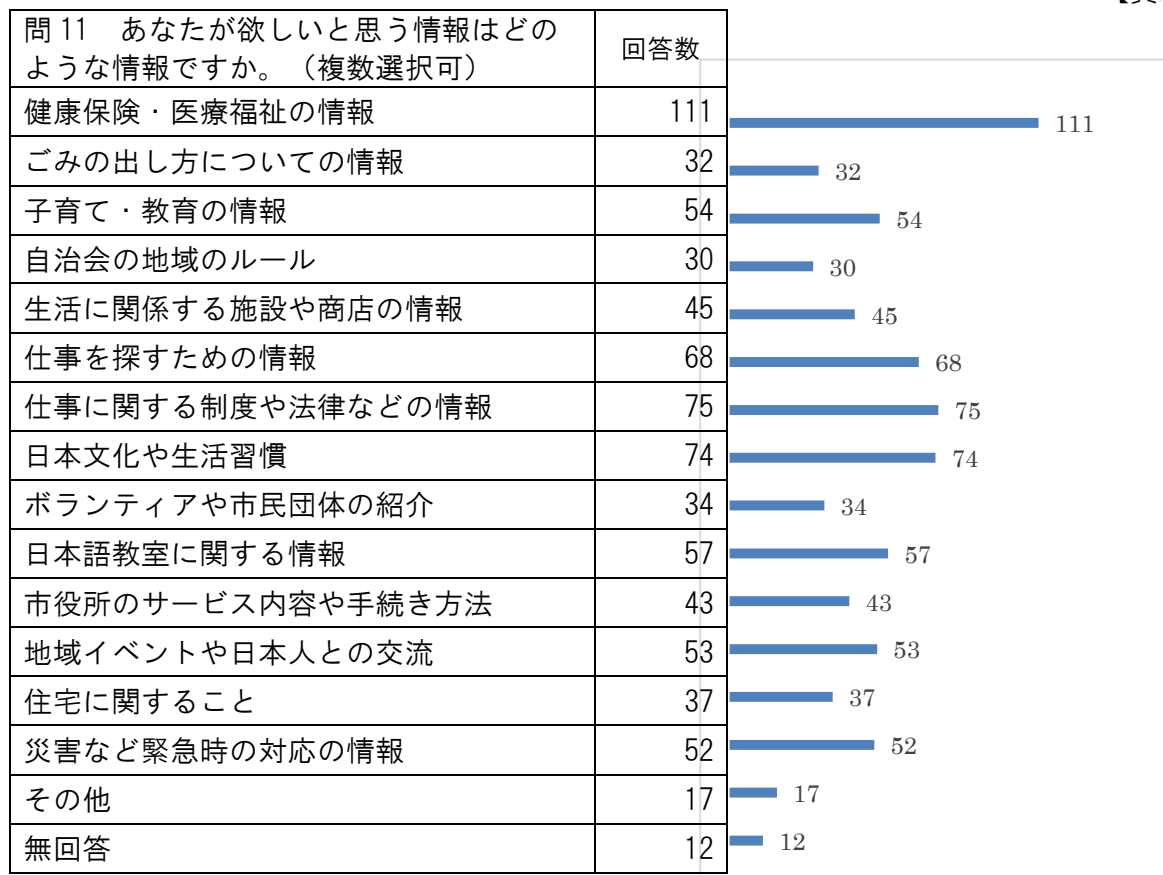
【情報・交流について】



・生活の困り事に関しては、「収入が少ない」との回答が最も多かった。次いで「言葉が通じない」や「友人が少ない」という回答が続いた。

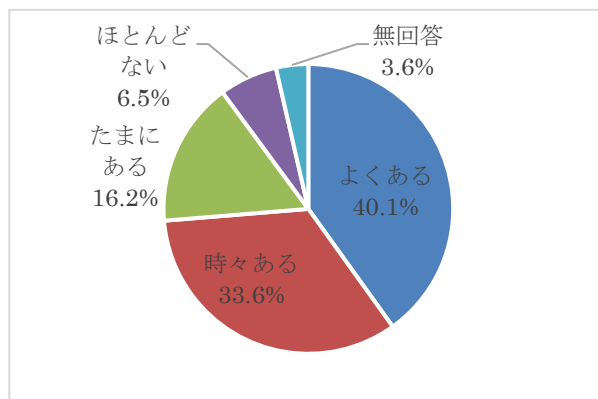


・情報源は、「知人・友人から」と「インターネット・SNS から」が多く、次いで「職場の人から」、「家族から」となっている。広報媒体や市からの広報物から情報を得ているとの回答もある。



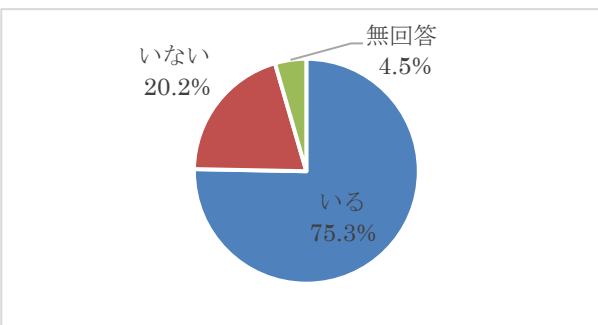
・伊賀市では多言語情報紙 IGA を発行しているが、アンケート結果にある知りたい情報を掲載しており、ニーズにあった広報を行っていることがわかる。市からの多言語情報について、より周知し生活に密着した情報提供を行っていくことが必要である。

問 12 あなたは、日常生活で日本人と会話することがありますか。	回答数	割合
よくある	99	40.1%
時々ある	83	33.6%
たまにある	40	16.2%
ほとんどない	16	6.5%
無回答	9	3.6%
合計	247	100.0%



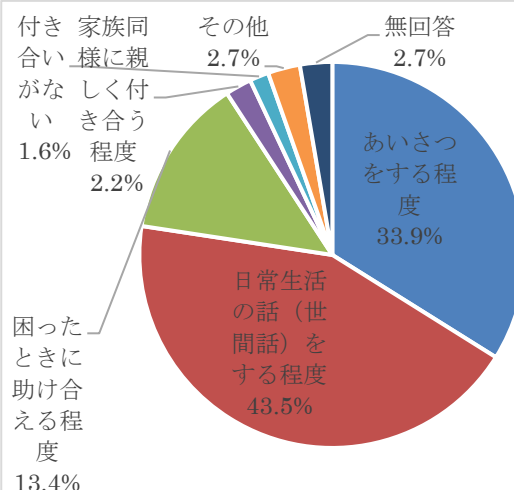
・日本人と会話することが「よくある」の割合（40.1%）と最も高く、次いで「時々ある」の割合が（33.6%）となっており、日常的に日本人と何らかの接点がある人が、73.7%となっている。

問 13 あなたは、伊賀市に住む日本人の友人や同僚がいますか。	回答数	割合
いる	186	75.3%
いない	50	20.2%
無回答	11	4.5%
合計	247	100.0%



・「友人や同僚がいる」の割合は 75.3%だった。この結果は会話する関係が「よくある」、「時々ある」の割合に近い。

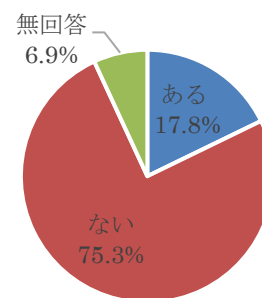
問 14 日常生活で日本人とどのような交流をしていますか。	回答数	割合
あいさつをする程度	63	33.9%
日常生活の話(世間話)をする程度	81	43.5%
困ったときに助け合える程度	25	13.4%
家族同様に親しく付き合う程度	4	2.2%
付き合いがない	3	1.6%
その他	5	2.7%
無回答	5	2.7%
合計	186	100.0%



・交流の内容は、日常生活の話(世間話)の割合(43.5%)が最も多く、次いで「あいさつをする程度」(33.9%)、困った時に助け合える程度」(13.4%)となっている。

【人権・子育てについて】

問 15 あなたは、これまでの伊賀市での生活において、3年以内に差別を受けた経験がありますか。	回答数	割合
ある	44	17.8%
ない	186	75.3%
無回答	17	6.9%
合計	247	100.0%



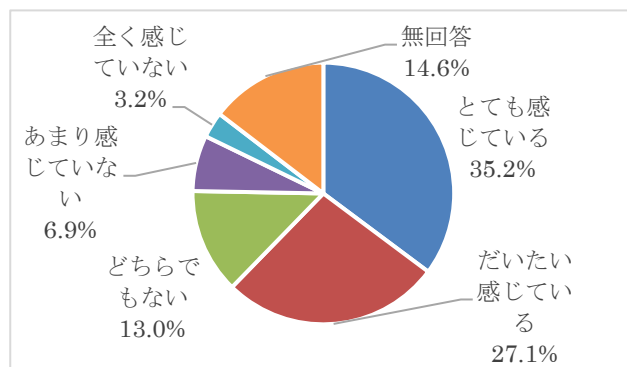
・差別を受けた経験があると回答した割合は、17.8%であった。

○問 16 問 15 の回答理由

- 外国人だから
- 仕事と他のところで差別を受けた
- 医者では通訳がない限り診察を拒否されました。 翻訳料は1時間あたり3,000円です。
- 日本語ができないから
- たまにありました。理由は、最初対応されたときに日本語がわからないと思われて、きつい日本語を話された。こちらから話したら対応が変わった。
- 悪いペルー人のせいでペルー人がみんな同じと言われて、仕事がなかなかむずかしかった。いろんなところでガイジンとよばれる。
- 職場でコロナ関係
- 孫がされてる
- 日本語を学ぶときに、日本で生まれた人、日本人と比較をされる。
- お店の店員さんに盗まないようにずっと監視をされていた。レジでも触れたくないという感じがでた。
- 娘を妊娠してるときに、医者が態度が悪かった。
- 外国人だから、店員さんにいじめをされた
- 私たちが危険なもののように、日本人が私の家族を避ける

- 住んでいるアパートの給湯器が壊れて大家さんに言った。大家さんは「直す」と言ったが、何もしてくれなかった。日本人の隣人に毎日外でお風呂をするのはどうかと言われた。何回もお風呂に行き帰るとき、隣の男性と会って、彼は長い間ほっとかれているから私を助けようとしてくれた。大家さんに電話をしてもらった（私がしても電話に出してくれないが、隣人の電話には出た）。最初は大家さんは「不動産屋が何かするべきです」と言った。隣人が不動産屋に電話をすると、「何も知らないよ、大家さんが直すべき」と言った。隣人はもう一度大家さんに電話をし、「直すか、機械を変えるか」を聞いてやっと変えてくれた。
- 店主は私の車を駐車したことで私を怒鳴った
- その時、ここ伊賀市で運転免許を取ろうと考えました。しかし、入学するとすぐに、私が働いていた会社の上司に、私は日本語を話すことができず、日本に来たのは初めてなので、日本では運転免許を取得できないと言われました。
- 重たい仕事をさせられて、外国人だから差別をされた。

問 17 伊賀市は子育てしやすいと感じていますか。1つ選んでください。	回答数	割合
とても感じている	87	35.2%
だいたい感じている	67	27.1%
どちらでもない	32	13.0%
あまり感じていない	17	6.9%
全く感じていない	8	3.2%
無回答	36	14.6%
合計	247	100.0%



・子育てしやすいと「とても感じている」割合は、35.2%であった。次いで「だいたい感じている」が 27.1%で「どちらでもない」が 13.0%であった。

○問 18 問 17 の回答を選んだ理由

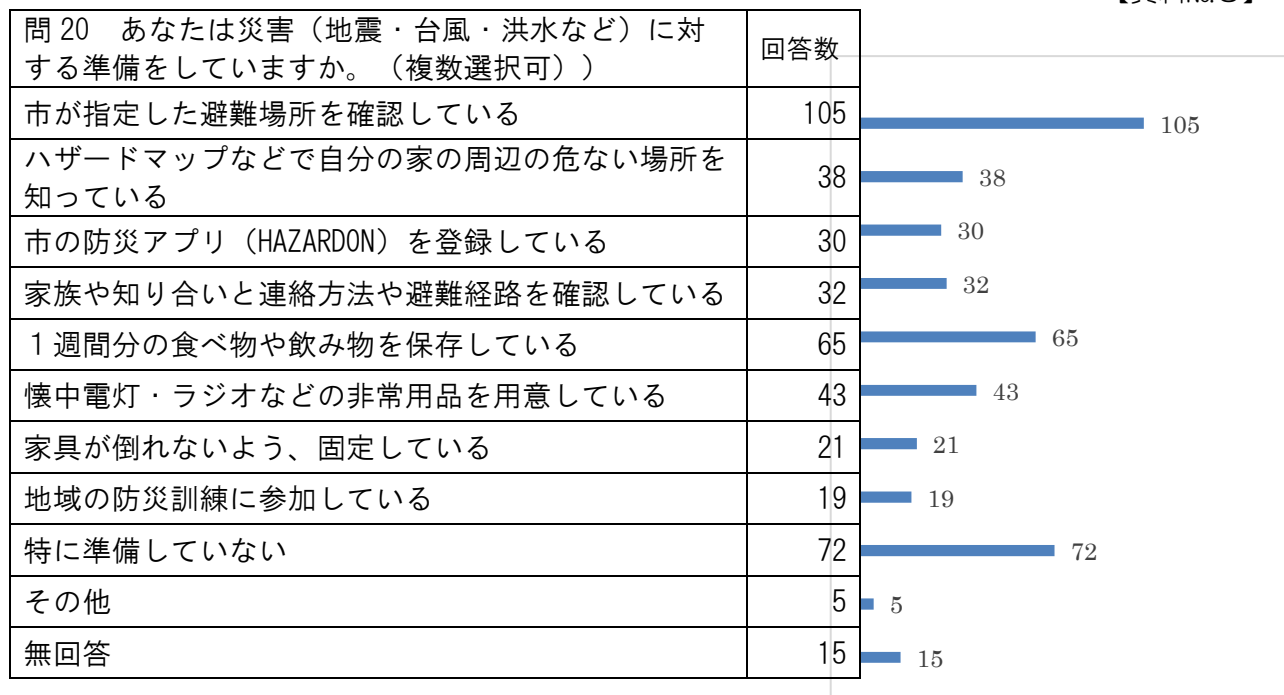
- いじめがあるから
- だけど、先生たちによる。外国籍の子ども(ついていけない子)が困っている姿を見ても助けてあげない。自分ができないと感じてしまい、勉強するのをやめ、続かなくなる。
- 公園少ない、前のすんでいたところみたいに子供の国がない。遊べる場所が少ない。
- 将来的に自分の子どもたちが伊賀市を気に入るかはわからない
- 低所得
- 自閉症の子どもたちがいるが、特別な子どもの学校のオプションがない
- 自分は差別を受けたことはないけど、子どもでも大人でも学校で差別を受けている。
- 子どもがおとなしい、ずっとひきこもっている
- 子どもの心の問題について相談する心理学の先生がいない
- 住民が高齢者が多いので、まだ外国人に違和感があって人見知りをする
- 市役所では通訳のサポートがあるが、小さい学校にはない
- インフラが悪くて、レジャーの場所が少ない。公園が少なく、管理が悪い。たとえば、草がのびてる、草が多くて、遊具が少ない。
- 給料が少ないし、税金を払うことが辛く、子どもに物も買えない。
- 親によって、子どもたちの日本語教育のレベルをみないといけいない。先生たちが子どもたちの心配をしていない。学習をしていることに対して、していてもしていなくても興味を持っていない。
- とても静かで暮らしやすい。今まで悪いことはなにも起こっていなかった。
- 安心感があって、地域とのコミュニケーションが良い。
- 子ども向けのサークル、イベントをしてほしい。(スポーツ、工作、習い事)
- おだやかな場所
- フレンドリー
- 教育と外国人のサポート
- 差別がない。人間のことを理解している。

- 子育てによい
- 市が提供する教育体制が非常に優れているため
- 保育所で月に1回先生とお話をする時間があり、その月の活動内容について教えてくれる
- 私はここで育ち、子どもたちも育った、子どもたちは日本人の友だちとふつうにいっしょに遊んでいる
- 学校がよい
- 伊賀市は整理できてて、きれいで安全
- 子どもの塾がもっとあったらよい、安いもの！
- 安心・安全な街
- 障がい者により施設、よいサービス、よい学校がある
- 子どもがここで産まれて、何も問題を感じないから
- 静かな町だから
- 遊ぶところが少ない
- 子どもたちが小さいときに責任感を持つことを教えてもらっているから
- 学校によりオプションがあるから
- 小さくて温かい町、インフラがよくできてる
- 学校は外国国籍の学生に慣れていると思うから
- 「外国人嫌い」みたいな人はまだ会った事ない
- 観光
- 学校や保育園の校長や園長、職員たちのわたしの子どもたちが日本の社会に参加するような努力を感じます。
- 保育園や幼稚園、学校が近い
- 保育園や幼稚園、学校が多い
- 助けを必要としているときは、誰もが喜んであなたを助けてくれます
- 子育てに最適な場所
- 学校では外国籍の子ども向けのいろんなサポートがある
- 伊賀の天気は安定している、子育てしやすい、先生が優しい

【災害について】

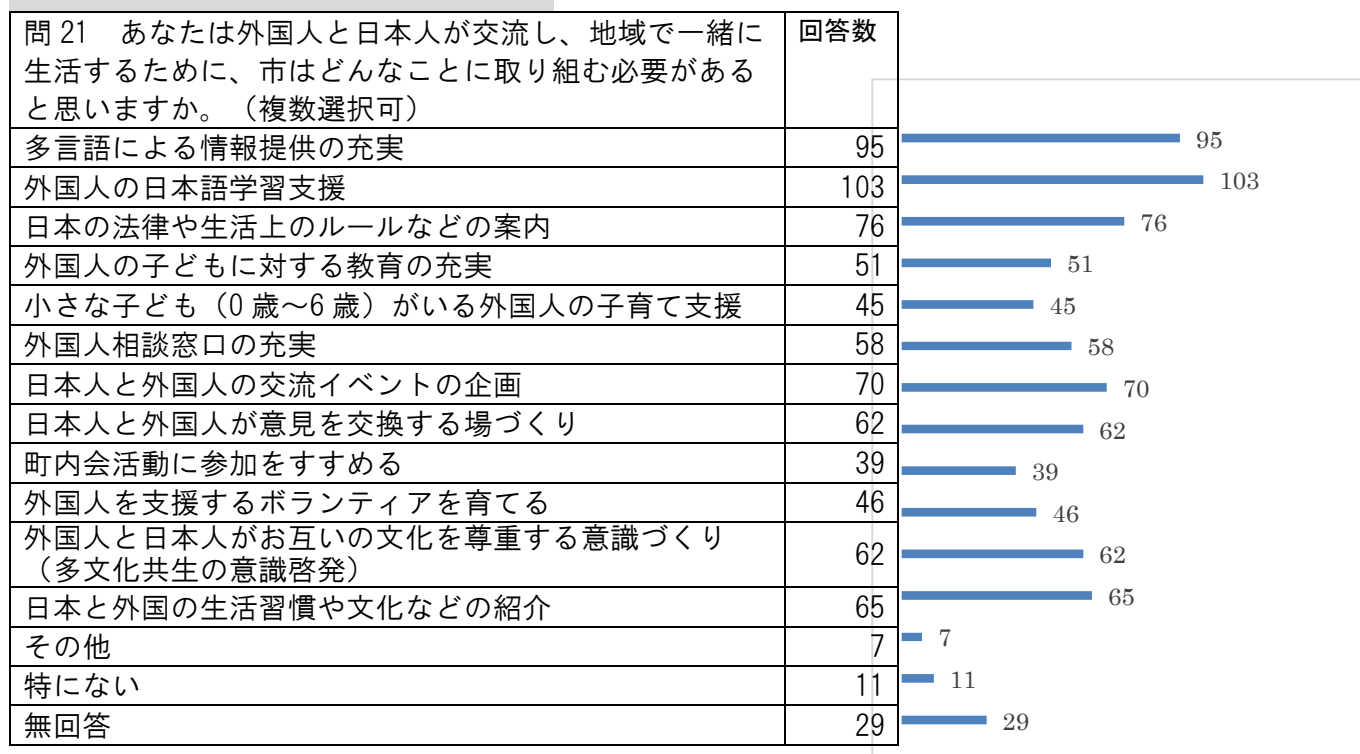
問 19 地震などの大きな災害が起きた時に、あなたはどのようなことが心配ですか。（複数選択可）	回答数	
どこに避難したらよいか分からない	92	92
家族や友人との連絡	87	87
災害情報をどこから得られるか	75	75
理解できる言語で情報が得られるか	73	73
周りの人に自分の意志や願いが通じるか	42	42
わからない	21	21
無回答	15	15

・災害時の心配は、「どこに避難したらよいか分からない」が最も多く、次いで「家族や友人との連絡」、「災害情報をどこから得られるか」、「理解できる言語で情報を得られるか」と回答した数が多い。



- ・災害に対する準備として、「避難場所を確認している」との回答が最も多い。次いで、食料、飲み物、非常用品の備えをしていると回答した人が多かった。
- ・「特に何もしていない」と回答した人も一定数いた。
- ・外国人住民は、日本語での読み書きが出来ない人が多く、災害時に提供される日本語での情報にアクセスしにくく、不安を感じていることがわかる。

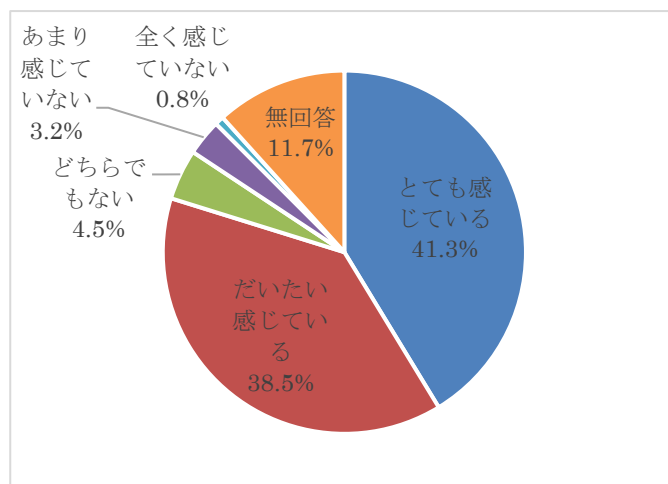
【多文化共生のまちづくりについて】



- ・市の取り組みについては、「外国人の日本語学習支援」が最も多く、「多言語による情報提供の充実」や「日本の法律や生活上のルールなどの案内」など、生活にかかる支援について必要と思う人が多かった。
- ・「日本人と外国人の交流イベントの企画」、「日本と外国の生活習慣や文化などの紹介」、「日本人と外国人が意見を交換する場づくり」、「外国人と日本人がお互いの文化を尊重する意識づくり」など市民同士の

交流を必要と思う人も多かった。

問 22 伊賀市に住んでよかったと感じていますか。1つ選んでください。	回答数	割合
とても感じている	102	41.3%
だいたい感じている	95	38.5%
どちらでもない	11	4.5%
あまり感じていない	8	3.2%
全く感じていない	2	0.8%
無回答	29	11.7%
合計	247	100.0%



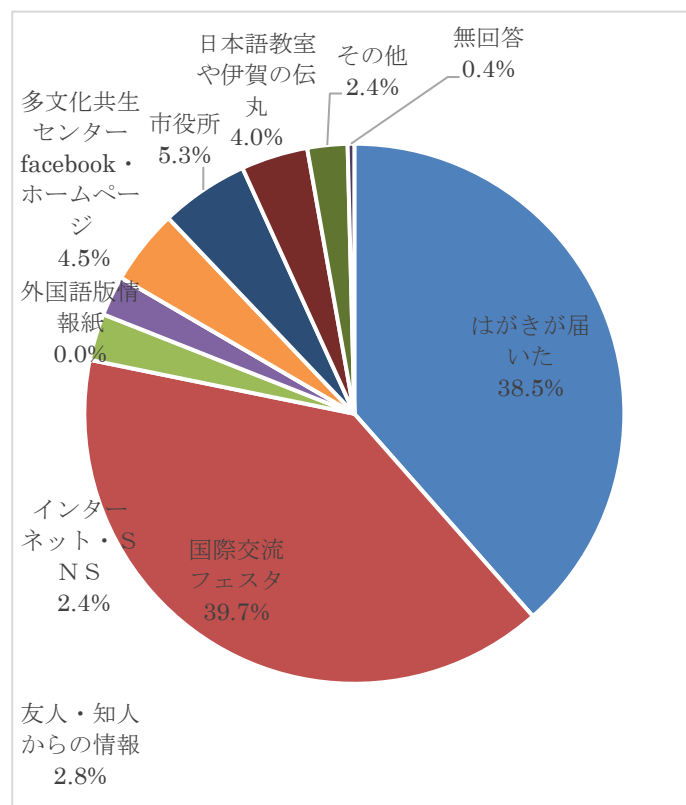
・伊賀市に住んで良かったと「とても感じている」割合は、41.3%だった。「とても感じている」と「だいたい感じている」を合わせると 79.8%となっている。

【問 23】 問 22 の回答理由

- 税金が高い。もっと仕事をすると、もっと税金を払わないといけない。仕事をしていない人に対しての支援がおかしい。
- 低所得
- 静かな町で不便なところは0～6歳の子どもが保育園になかなか入ることができない
- 環境がきれいじゃない、汚れている、平和じゃない
- 場所によっては遠くて、バスや電車では行けないため
- 自分は町の中に住んでいない。仕事の寮に住んでいるから
- 子どもの遊ぶところが少ない。公園、プール、レクリエーションの場所
- 仕事をしていない人たちがずっと支援を受けていて、仕事をしていない方がいいんじゃないかと思う。60 歳以上の人が正社員で仕事を見つけられなくて残念。
- 小さい町で市役所に通訳がいて、外国人向けのサポートがある。
- とても暮らしやすい。いつも日本人と交流がたくさんできるイベントがある。
- 来日してからずっと伊賀に住んでいるが静かで暮らしやすい。
- 自然がいっぱいあって、平和的なところだから。
- 平和
- おだやかな場所
- とても良くて、持ち家を買った。
- おだやか。礼儀正しい人たち。いい仕事。天候もよい。
- 安全ですから
- 20 年以上住んでいる外国人がいるので、住みやすい。子どもたちは、ここで生まれ、それぞれ友だちがいる。PTAやカトリック教会のコミュニティに参加している。
- 住むのに安全な町
- 以前からこの町が好きだった
- 安全とサポート
- 自分の人生の半分以上を伊賀で過ごし、親も住んでいます
- おだやかな場所で、レジャーの場所がある
- 便利
- 大きな店がないけど、大阪、名古屋の間にある。クリニックでポルトガル語の問診票がある、とてもよい。
- 日本語を少ししか話せないけど、いい暮らしをしている
- この町が好き。日本人たちはどうにかして助けようとする

- 慣れたから
- 学校教育がよい(クラスを見てくれている)
- やや小さい町ですが、静かで住みやすい
- 好きです
- 津波のおそれがない、雪もない
- 街の立地がよい
- 静かで騒ぎがない町
- 店が少ないけど、静かな町
- 市役所などに通訳がいるから
- 住みやすい静かな町
- 田舎だから静か
- 気候がよい、大きな町に近いから
- 安全で静かな町
- 温かい町
- 日本に来てからずっと伊賀にいる
- 治安が良いし、環境も好き
- 穏やか、落ち着いた生活
- なぜなら、私たちの給料は多くありませんが、ここ伊賀市の外国人は平和と団結をもっており、特に私たちの宗教であるカトリックでは団結し、子どもたちを教育し、導いています。
- 仕事と静かなコミュニティがあります
- 平和で穏やかな街。忙しい街から離れたところにあります。
- 場所的にはとても便利。伊賀からいろんなところに行ける、電車で移動するならもっと駅があったほうがいい
- ここで暮らすと安全です
- 伊賀の環境が静か、盤面がきれい
- 伊賀市は平和の市です。環境もきれいです。
- 生活しやすい、便利、スーパーが近い
- なんでもすべてがよい

問 24 あなたはこのアンケートをどこで知りましたか。	回答数	割合
はがきが届いた	95	38.5%
国際交流フェスタ	98	39.7%
友人・知人からの情報	7	2.8%
インターネット・SNS	6	2.4%
外国語版情報紙	0	0.0%
多文化共生センターfacebook・ホームページ	11	4.5%
市役所	13	5.3%
日本語教室や伊賀の伝丸	10	4.0%
その他	6	2.4%
無回答	1	0.4%
合計	247	100%



・「はがきが届いた」が 38.5%、「国際交流フェスタ」39.7%の方法で回答をした人が約 80%だった